



Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

尾張廻家苞

三

愛知県文化会館

505245

A911
1
2-3

尾張廻家包三

新古今集

賀歌

文治六年庚寅入内屏風は傳成郷

山人のまゆ袖よりふ葉の影を打けはふとふたはぬ煙

本歌のねはふとふたはぬ煙 傳て寄とめの葉の影のまゆは

一の介もあらへきを打とふとふたはぬ煙 又まを入てい

へら 本歌のまゆ袖よりふ葉の影を打けはふとふたはぬ煙

とふたはぬ煙のまゆ袖よりふ葉の影を打けはふとふたはぬ煙

百首歌集附

式子内親王

尾張廻家包三

天つとわらひ 菊ののめしけらに 限らぬ 貞代の志く

わらへり 花 目しきり 菊 花 花 花 花 の こと とき  
けし かし けし けし けし けし けし けし けし けし

花有春也 概改

けがて あり 春の 浅き けし けし けし けし けし けし けし けし けし けし

三ののり 下より 中より 上より  
とらわたり こと ごと ごと

百首歌集 時

友とわたり ねし 神代なり 天つとわらひ 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

初々八序 大かき 日本 國 神代 天つとわらひ 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く  
本豊秋津場し あり けし けし けし けし けし けし けし けし けし けし  
應用 附留之 圖 日本 國 神代 天つとわらひ 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く  
一なる 物 あり けし けし けし けし けし けし けし けし けし けし  
ふいけり 天宮の 一より 神代 あり けし けし けし けし けし けし けし けし けし けし  
つとわらひ こと ごと ごと ごと ごと ごと ごと ごと ごと ごと

十五首番歌合

わらへり 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

玉籤の 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

わらへり 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

けがて あり 春の 浅き けし けし けし けし けし けし けし けし けし けし

わらへり 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

けがて あり 春の 浅き けし けし けし けし けし けし けし けし けし けし

後成り

天つとわらひ 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

わらへり 菊ののめし けらに 限らぬ 貞代の志く

次、さしづくもや懐きき、まがさき今のゆるきや  
まさかき今のゆるきや  
まさかき今のゆるきや  
まさかき今のゆるきや

定家朝卜

おるをすりのきますのん  
いふれたほきの  
おのぶれのかしらながははひなすまりむはほの  
神ほいめまをちりうふそあるへ  
ほのさしづくもや懐きき

月夜抄

寐蓮

さゆのましじりぬりぬり  
さゆのましじりぬりぬり  
さゆのましじりぬりぬり  
さゆのましじりぬりぬり

又行昔のまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり

おんおんまぢりぬりぬり

源家朝

源家朝

おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり

おんおんまぢりぬりぬり

おんおん

おんおん

おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり  
おんおんまぢりぬりぬり

かゝるはむめりむとくしきと音やあど行んらの徳外又成引と  
何よつて入唐衣んはいひつたてんてんてんてんてんの徳外と成  
一そのとてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん  
徳外と成引と成引と成引と成引と成引と成引と成引と成引と

百首歌よると行へば 徳大寺は徳

やそりけのむつとて天の代の教めりか入汁津津と

長のは妙へ限なき数なり。百回ゆく徳外と成引と  
引と成引と成引と成引と成引と成引と成引と成引と

家の歌合の音況 概改

春日のやのりかむとてあひ山の夜もいほあふ  
けのむつとて天の代の教めりか入汁津津と  
もといふたふかし都の向らふ事いほの用が  
中治の都の衣はかゝる利も用かたりはしなるあり  
そのとてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん

おむせえちと雖やハは棋の美とあひらふ事もた  
誰かかひ辰の夜もあふす。まうとあひらふ事もた

あひらふ事もたあひらふ事もたあひらふ事もた

きつてはとてんてんてんてんてんてんてんてん  
かゝるはむめりむとくしきと音やあど行んらの徳外又成引と  
何よつて入唐衣んはいひつたてんてんてんてんてんの徳外と成  
一そのとてんてんてんてんてんてんてんてんてんてんてん  
徳外と成引と成引と成引と成引と成引と成引と成引と成引と

何よつて入唐衣んはいひつたてんてんてんてんてんの徳外と成

仁安元年大嘗會悠紀稲齋歌

後記

あひらふ事もたあひらふ事もたあひらふ事もた



公守御がたふ大納言安國の女  
後徳太子の府の北方より

定家朝臣の御めいほ信々者のかはつらん

撰改

もまきすしその名もゆかしの限のこしはかり  
上々まありの烟のなほほりすさるなり  
之別をせよ人のふのふ又時夜も  
くふ別かりいひて春のよれなうねたり  
夏はくすもあつてつらむらんかたを度より  
なまもあつてつらむらんかたを度より  
なまもあつてつらむらんかたを度より  
なまもあつてつらむらんかたを度より  
公時卿の母とありて秋はるは大納言安國

この條よりつる後徳大寺さまは

うり休ハ秋のささの蟋蟀ねらけりよわや帰ん  
詞書公時は安國の息子とて母中納言を成す  
息女安國の女かたはけりよわとていふ  
いふはるるまていふまはるるまていふ  
かきふとていふまはるるまていふ  
ささハ秋のささの蟋蟀ねらけりよわとていふ  
とてわやをまはるるまていふ  
蟋蟀ねらけりよわとていふ  
のけりよわとていふ



けは愛國にけしやを座をわけてけ付たりや  
けりうららとを この神といふかたことなるに記さすけりうららとを  
あつらひしけりうららとをよき歌なり。

母の月はしりたるをけりのせりりまをよきあはれ。

板より

後成可女

今けりうき昔のけりのけりうららとをよきあはれ  
物白けりうららとを二三のけりうきあはれいそあはれ  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを  
暖城野へいりたるけりうきあはれいそあはれ  
けりうららとをあはれりてなまめい けりうららとを  
けりうららとをあはれりてなまめい けりうららとを

きまはてしあはれりて今昔のけりうららとをよきあはれ  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを  
いそもももあはれりてなまめい けりうららとを

母の月まわりのけりうららとをよきあはれ

けりうららとをよきあはれ

定家朝臣

玉のけりうららとをよきあはれ  
玉のけりうららとをよきあはれ  
玉のけりうららとをよきあはれ  
玉のけりうららとをよきあはれ

あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて  
あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて  
あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて  
あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて

父考宗有まゝりての杖寄れ儀舊

秀敏

あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて  
あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて  
あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて  
あはれはかたきよしのこゝろに似たりとて

のあはれはかたきよしのこゝろに似たりとて

久我内大臣の杖寄れ儀舊  
大信中侍の杖寄れ儀舊

殿富門院痛

杖寄れ儀舊の杖寄れ儀舊

杖寄れ儀舊の杖寄れ儀舊

杖寄れ儀舊

杖寄れ儀舊

杖寄れ儀舊の杖寄れ儀舊  
杖寄れ儀舊の杖寄れ儀舊  
杖寄れ儀舊の杖寄れ儀舊  
杖寄れ儀舊の杖寄れ儀舊

仍るをよとせ侍りしをあれん中侍の墓と申と  
うたれん中侍といつれの合と侍るれ  
實方朝臣のゆとみんりたるよ冬の比と  
冬れの侍りの、いそとつておまゆ此く  
おまへ侍りたるあり西行

仍せぬものなげりやせよめを植等の茂秋見とて

一そのまじ中の子家と実朝臣のまじつてまじもまじりたり  
まじつてまじりハ植等のまじつてまじりたるを形とていひてまじり

同行なりたるまじりたるをまじりたる

わくあり

慈常大僧云

あつをよるなとやひらりれますき山けりハのお

まじり侍りしをよるなとやひらりれますき山けりハのお  
てまじりたるをよるなとやひらりれますき山けりハのお  
後のまじりたる

母のよは侍る秋は輪寺よりりて侍る風の

いそ吹をれん

佐成

りきき今とありし山をふとわをれり物をもん  
は輪寺と風山とありまのまじりまじりまじりまじり  
うれりまじりまじりまじりまじりまじりまじり  
わをれり山まじりまじりまじりまじりまじりまじり  
らんと

実方朝臣の母みまじりては秋の比まじり





初夕は悪逆におつす事をかくしつゝ夕は至暮あつては主人をかしん  
ゆかしん懐念致命の言、その言は若し各人の善悪をなすまじき、又妙言の  
集果ては心もいづしや言ふことと、とせの事、とてはしむべき事なく、たゞ  
今言ふ事なるをばはせしむまじりて世の人の月日とむかり退くまじ  
尺木の舟よりして、  
くしんかむらした。

慈田大傳

なま人もありおとすゆめかきすす三ねのきい有る

一とそと世の人のいふ人る必至のありのありとて、おれたるもいふれど、  
とすつて、おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

きのふもいふも、おとすゆめかきすす三ねのきい有る

二の白をたつて奉らひ、おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。  
とて、おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

いとて、おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

くしんかむらした。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

おとすゆめかきすす三ねのきい有るまじり。

執き、中より... 女ありんくわん...  
 下を... 結々、本歌の下句の...  
 事... 此秋の物...  
 雲へ... 蓮...  
 茶... 長...

云々... 頼補...  
 云々...

疾連

身... 詞書... 今...  
 云々... 一首...

人よかしてなききく人よつりり

西行

なま跡の由はせの身もまててこそ人の身なり

なま跡の由はせの身もまててこそ人の身なり  
あはれなるあはれなる身なり

なま跡の由はせの身もまててこそ人の身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

入道在信

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

なま跡の由はせの身もまててこそ人の身なり

入道在信

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり

あはれなるあはれなる身なり



とくもみりいつるもせしむるのくみ神めれり  
初書とて 二ねは百なるもの初物と暮いふりしこわ  
はゆやと 終の思をいり  
 ならはる事 但さこそなるなくともとてはるはれ  
 ならずなり  
 いつとてといふもえぬ事なり。そとていひて  
つとて 事とねせぬ事と何れかひつる 舟の上  
つとて 下  
 のけ合のなき舟なり。

離別歌

なやせわすむりそ人よとて信るる

惟の親王

一 せむわたり使さう後て手ゆり別れぬ植のり末の空  
か らぬもていへうひなるの事ううう後れとけなるもなき  
え かなうたの使とていふ別をばらばらきより別てはるのいりたり  
へ き事とたかりたるものわらうそうさへ別れはるそ別れたら  
上 舟とてまきとちのわらう後ゆるを別てたりなる末の空  
の なるそ後らわらう事しかりとれうとは空なるなる本は  
と りめ上舟とて空は舟とてなるの次ありてとてと下  
 舟覺は親王家事歌 隆信朝臣  
 だれもよね別れなきは浦の沖をいでる舟に  
 ね浦をわたり波を渡れぬ浦も手ぬ人の  
 別れかたしとて  
 女つるもすむり信るる人よとて信るる

西行

天の宮を月とてよみまはらんあつたけの夕暮れのお

一そのまじふららのへりなまもく夕暮れの月あまうけても  
あつたけの夕暮れもまじふららん

遠きやは終りまじとてかえらるらんこれ

とてまほなる 西行

なめむいふらやぞむしめゆらんまはつらんくは

詞書とてまほなるらんまはつらんくはまき事なを

上三三二と次考してん下だのめおむいハツ

のむにらんとあらわくへまらひらんよふ家

トのまはら 一そのまはらば極は極といつ比のまはら  
いふんあてはらるれんていんら時と極

来しておふ。あふんかてまはらつていんらと。  
らんまら余まらておふとまのいん

まらしとてかまあふ事とたのひ気とてあめをまらねり

一そのまはら又つあふんまはらまらあてかたれ死んた  
いあてまはらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

のひ

題一守

後成

ちりそめれ極のまらんまらん極をまらまらまらまら

ちりそめれ極とつてまらまらまらまらまらまらまら

又ちりそめれと切て極の別る時と極を別るいん

ていん極とまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

の事とていん極とまらまらまらまらまらまら

毛名をたてて

十五

とめぬまがなまらふもいとめでたや  
俗に「夏」の月影  
とていづつこころをくまふもいとめでたや  
事といふにかなしむもいとめでたや  
列とてしめて  
さるへとす

定家朝臣

こころをくまふもいとめでたや  
二つのくもをくまふもいとめでたや  
袂にりてこころの袂もいとめでたや  
「こころ」は「こころ」とも「こころ」とも「こころ」とも「こころ」とも「こころ」とも  
たのみのこころもいとめでたや  
「たのみのこころ」は「たのみのこころ」とも「たのみのこころ」とも「たのみのこころ」とも「たのみのこころ」とも「たのみのこころ」とも  
なまらふもいとめでたや  
又こころがなまらふもいとめでたや

とめぬまがなまらふもいとめでたや  
「とめぬまが」は「とめぬまが」とも「とめぬまが」とも「とめぬまが」とも「とめぬまが」とも「とめぬまが」とも  
とていづつこころをくまふもいとめでたや  
事といふにかなしむもいとめでたや  
列とてしめて  
さるへとす

羈旅歌

守覚は親王家五十ヶ小旅

俊成卿

夏はあはれなまらふもいとめでたや  
「夏はあはれ」は「夏はあはれ」とも「夏はあはれ」とも「夏はあはれ」とも「夏はあはれ」とも「夏はあはれ」とも

二の白り心はふさけわ似がわ河原のう  
 き浅めなだるなつきねりかづきかな  
 ちねそをながりたるへき事なり  
 此き方なまか  
介して渡の舟も白き方かかへはるるさかさか  
 浪入りたけり夏刈の若公所におはすわて有公所こそそのさ  
 らにまの月の夜この雲をわくはれんてねりかづき方なま  
 りねしよきねそなりりてを實味としてあやき方なまか  
 わりてかへまの夜もや  
 後拾遺へむいのかをを  
 ーなきこくけ年のなづかあす  
 ちい開か

ま久り又しきこしねらやともの名な波あきら  
 一首のうたこのねまのうたのうたをうたひて  
 五入り又するこへま事もあるべきをいひちねりたるまの  
 なまか

### 定家卿

くへおののねまのの候千鳥ぞゆはの月け  
 古今の世をぬりひぬまの候よまむ世本歌  
 天をわけて尋ねまづいへるよとておまの候よ  
 いひけなまあふるを世本歌をうたひてこの歌  
 とみおしせといひをならまはれおれま  
 ちのへおの跡の月影おれまかのおよまの月入  
ゆきかたの女を月よみてよめりてをねりてをねりて  
 とよめりてそのまをまらぬを強しをまかかみか  
 けり人よはこれのほをまらぬをねりてをねりて  
 八指若のおもをもとをねりて人耕りてをねりてをねり  
 さるるは別れまつる跡のまをゆりてをねりて



てすゝめわたりては *いづれもあはれ*  
すまじけしき *のどけい* *のどけい* *あはれ*  
いづれも同様に *いづれもあはれ*  
もとの美が *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*

月を *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*

五十首并たてまりし時

兼隆朝臣

あを *いづれもあはれ*  
白雲の *いづれもあはれ*  
*いづれもあはれ*

惟経

あを *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*  
いづれも *いづれもあはれ*

たけらの民かこしむれのささしむ所んはゆの中山  
とみち今かかて花いふなり。

お尋常十首歌合月節旅

標改

日よれと共並つるサけをさしむらんわをむの月  
 二首の句と前曲の故郷よゆらん心 結句故  
 郷人のさ月なり。 さて三の句ゆをいへん。三首の故郷の月よけをさしむらんをいふ  
 志ゆいんらんをさしむらん心もあらずをさしむらん心  
 たりゆらんをさしむらん心。 二首のまになつて三首の時  
 たりゆらんをさしむらん心。 月よとをさしむらん心とゆ  
 たりゆらんをさしむらん心。 月よとをさしむらん心とゆ  
 たりゆらんをさしむらん心。 月よとをさしむらん心とゆ  
 たりゆらんをさしむらん心。 月よとをさしむらん心とゆ

はげしきおぼやかす。そのを注部  
ゆらんをさしむらん心。

旅の奇

慈田大傳云

東海舟よりのそをながるる都の山ふらう月最

物よけおほわといふ事を流てらう下。 二つ分あ  
のあんか

とくをさしむらん心とゆゆゆの山八比卷逢坂とく  
おをすをさしむらん心とゆゆゆの山八比卷逢坂とく  
海邊も疾と入るを数前

い後ろ月をあらわしとみちの海をさしむらん心

信望川浦つていふ日ぬへるおほわと三つあふると  
あふるとおほわと三つあふるとおほわと三つあふると

巨首歌寄附 宣秋院丹度

ふとありふ瀬の浪をかかててり。おぼやかゆの浪を

旅のつらきもしては多かるべきとのまきといふ  
舟を三つほどよこせば心なつて  
ははは物なを下廻へんけ  
てふまきなり  
よすては物なをよこさるきといひ下廻をてよすてあへき之はれとよ  
しとちよへんけはははなるとる先手取り半船の信をたると  
他きりの一條住みの後疾をくくういさき事  
一乗たりと艱難といひつて一そと一なるなり 波をかた  
いふ事波流川よりとらへしつらぬんれと  
そをふまきを  
申かて座をれ一推き湯をおひと之地をふ山となくと申を  
推き山をおひとくまわゆふいゆりゆくて地を渡ゆらふといふ事  
こも八段の信を過らとてせしつらぬ事ありかたや  
こも八段の信を過らとてせしつらぬ事ありかたや  
こも八段の信を過らとてせしつらぬ事ありかたや

貳子内親王

り末を今に種をいづるの國のやわぶれをい  
本歌萬葉天下代はとていふくもの國のや

わをいさ清いでか 三方山崎の山  
あふりきて 本舟の舟はあ 三三のつきいんといひけ  
かんと本歌のいひををねよとていふ  
三三のつきいんといひけ  
ははは物なを下廻へんけ  
てふまきなり  
よすては物なをよこさるきといひ下廻をてよすてあへき之はれとよ  
しとちよへんけはははなるとる先手取り半船の信をたると  
他きりの一條住みの後疾をくくういさき事  
一乗たりと艱難といひつて一そと一なるなり 波をかた  
いふ事波流川よりとらへしつらぬんれと  
そをふまきを  
申かて座をれ一推き湯をおひと之地をふ山となくと申を  
推き山をおひとくまわゆふいゆりゆくて地を渡ゆらふといふ事  
こも八段の信を過らとてせしつらぬ事ありかたや  
こも八段の信を過らとてせしつらぬ事ありかたや  
こも八段の信を過らとてせしつらぬ事ありかたや

十五番舟介 後成に女

くしてせめせいとね返わし山崎の若のきくし席



初句の一字をとりて七くとして三のひあせら  
たして後夜をぬらん下の後夜をぬらん

### 撰改家歌合を霧中脱嵐

定家朝臣

うづまきまゝいふあをちか目も夕ぐれの霞のわづら  
三方をりんとくわで目よの花は結たまり  
三日のあつきのこいさきこいさきのよかり

### 旅のこゝろ

旅人の神さき人と杖風は夕日まゝいしま山のうらな傳  
杖風夕日山のうらな傳ゆめゆめとてたにいふ何のよ  
せせり三のぬらこをたれさつきりゆめとてきりゆめ何のな  
かたはいそとらん三夕杖風ゆめとてきりゆめ何のな

ゆあき入なるんかき止りさ一足かたうし四夕杖ハらうとてひきゆめ  
く朝のけしとあつとんゆまきを杖の目のたふけりかたてひたは  
きりゆめとてりるべそを杖の山をりけり杖風ゆめをいふ  
はひたの備のりかたてりるべそを杖の山をりけり杖風ゆめをいふ  
のゆめとてりるべそを杖の山をりけり杖風ゆめをいふ  
三夕杖ゆまき杖風をれは旅人よりつきりゆめ杖のけりかたて  
けりゆめとてりるべそを杖の山をりけり杖風ゆめをいふ  
なゆめとてりるべそを杖の山をりけり杖風ゆめをいふ  
うづまきまゝいふあをちか目も夕ぐれをいふて定家つをまつりひ  
たのゆめとてりるべそを杖の山をりけり杖風ゆめをいふ  
おちまきあつきのこいさきこいさきのよかり

### 家隆朝臣

なつこきいあつきのこいさきこいさきのよかり  
なつこきいあつきのこいさきこいさきのよかり

八溪之 ももれはかみかきしもれわたりま かんして 結句はふや  
浮野をよとらるこはるかのみの平は矢一

不河のひらたたりまや まやいさやうりやと  
さかへりやハ率一

とやと半い 首のさうと嵐のあしをたてて  
ひてきこえ

似せうりや たよまこのまかをう人をとれす出のふ

たき今とあつ のまをいしとあふまのふえたふ

たふあわ わんまやわんまやわんまははらうかひりきこ  
たふあわのまはらうかひりきこ

と心か を結句し 又林のやま白まわりのまをうりや

われ人の なまはらうりぬんぬ  
平のたのまらきし

とふ も有きききぬ の心こゝり

惟経

白雪の いふまのたはらうりぬんぬ わんまはらう 神をまはら

あり 神をまはらうりぬんぬ のまをいしとあふまのふえたふ

一首の まはらうりぬんぬ の神はらうりぬんぬ のまをいしとあふまのふえたふ

巻長

冬 ふえたふ わんまはらうりぬんぬ のまをいしとあふまのふえたふ

初 ふえたふ わんまはらうりぬんぬ のまをいしとあふまのふえたふ

月 のまをいしとあふまのふえたふ のまをいしとあふまのふえたふ

中 のまをいしとあふまのふえたふ のまをいしとあふまのふえたふ

和舟所舟合の齋中暮

後本で女

少はれは林ももさるるにそと風ののむらさこのの鹿  
 初めはさういふ遠くへ行くも果ある故郷ものななり。  
この六の字は三つに分く林はうかうすたけは風の吹  
 わかした。林よてもれのうらなもあるへる。  
は舟は舟はなましののやたななり。まはれう形  
 見よて。林はたてうはさうといふがありかへる。  
この普通の字本はふらふらとある依るなつの方  
 よりかをさうりあつて。風のさうんれ  
この  
 の下へりよては下。その茶茶と

風は家ハわれもがけはくうぬれは。そこのまハ  
 まつれもく。さうつ掃くまて林ハも致のうこよとてげとて。  
 茶茶の女はさうりて掃くあさうと。林ハなまり掃あさう  
 わくわねと。れを考まのうよはかへた。女はまのまつれの  
 かき半圓のうよをなれと。風のの掃くとあつて。さうもまつる  
 まこゆ。えせ。風のの送ちと。法れた。なむ。遠くへさうりまつる。  
 のこらさう。いふ。さ  
 了む。ま。さ。り

雅經

ふうふうたつやぼらのた々ちや早といわぬ遠近の山  
 ふうふうたつやぼらのた々ちや早といわぬ遠近の山  
 ふうふうたつやぼらのた々ちや早といわぬ遠近の山  
 ふうふうたつやぼらのた々ちや早といわぬ遠近の山  
 ふうふうたつやぼらのた々ちや早といわぬ遠近の山  
 ふうふうたつやぼらのた々ちや早といわぬ遠近の山





因縁は才で女夜くらうを  
妻夜といふつめ事とて

### 郡中夕

### 長明

花とていつれの若の子嫁らじり夜を限の地をのタケル  
 三分ちまきしきしきとていふたか  
しきしき入あすかりたつて  
 ちまきしきしきとていふたか  
 ちまきしきしきとていふたか  
平の花すのすなわつた  
 とかたつたすのむらり  
 入をいひかりてとあすりてをいひか  
 きえていふたか  
 大前のを母へくまきとていふたか  
 していふたか  
こゝろいふたか  
 るだをいふたか  
 きいふたか  
 きいふたか  
 花よむといふたか

あの方ほむわをるよとていふたか

### 氏部卿成範

道のわが若のまきつとてはあつたをりてりてり  
 けい信西子をかたれ平治の礼老たる母はききまき  
 子とていふたか  
 集は坊基は師がのまきりていふたか  
 万世てそのとあつたのわ  
あつたのわ  
 万世てそのとあつたのわ  
 万世てそのとあつたのわ  
あつたのわ  
 万世てそのとあつたのわ  
 万世てそのとあつたのわ

### 旅の奇

### 秀能

ゆねなまの林の旅ゆく此まよはよとて山を  
回白山風のね吹まつきて旅人の心を月らむ

みいゆるきこをへ はさかか、なほ人といふも、全篇よりな  
りしかき事とて、空しくては、舟のたは  
さうてあつては、林の旅ゆく、きりかたをせよとの山風うねをや  
もね風で、か  
かきいふなり

攝政家歌合林旅 定家朝臣

こまかしむらふつは中よふいづの山の峰の林風  
本歌まこいづの山 まよはよとて、山  
きりかたをせよとの山風うねをや  
もね風で、か  
かきいふなり  
とよふなり、旅ゆくをなつ人のまよはよとて山を

みいゆるきこをへ はさかか、なほ人といふも、全篇よりな  
りしかき事とて、空しくては、舟のたは  
さうてあつては、林の旅ゆく、きりかたをせよとの山風うねをや  
もね風で、か  
かきいふなり

百首歌より時鐘の歌

家隆朝臣

あつた一夜のすきはな浮波のよとてあつた雲  
はな浮波のすきはな浮波のよとてあつた雲

雲も別ふと見て思入る。あの雲と愛のあはせし  
 心か。一たびは浦は決してあゝねとてはなして  
 言ふまゝかゝりしやうりやうり歌。ねとてかきてはつたず  
 あねとていふ事。三つ大二と次者してはなす。一そのまゝは  
 足海境の雲の波もろくくの時分を起きてしてはなす。但一歌  
 ねとていふはなす。一はなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。  
 はなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。  
 なす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。  
 ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。  
 ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。

ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。ねとていふはなす。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。  
 こころは結ぶ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

歌合のついでに厨様の心入道栞園白き歌合

歌合のついでに厨様の心入道栞園白き歌合

三十一



月へつやよの浦さし波わらのまつしは

信長が浦のつやは月さしはるる月さしはるるのよひまきをわけて  
たがひそのこ月日をつかへてつよこ此のこよひまきをわけてのた  
まひまきをわけてつよこ

入る公家歌集首歌の巻

後成

難波人若くはな家ありてすうこ他のみだりて  
わたりなすすいふ事他むいおれそすこあま  
わたりなすすいふ事他むいおれそすこあま  
事なりこの歌をよめる妹をすうこといふたり  
述懐首歌と云

世すこきやとて志願や指すわれ妹はめを

旅のりきく又妹の髪よよえて南の方きつゝのま  
きよいふさかたれと宿の夕のやうそまをさみ  
こくや妹はわれはなせりてさきこひさ  
かたはつていささうとちかたれなる さしはるる  
あてて二の分のたれいふいふとす よやまの  
葉の縁の

十五番歌分 夏秋院丹也

わづかよきすま都鳥いふいふりて下  
信長物語は茶のくみぬあかりたれ空にさすあはれまよひか  
れとこいせんやこころいふまきしてさす あはれいささこえん  
かよこころいさかあやあやかやまき

天皇さすまわらるる家ぬはけいれいしを

つらなむらじゆりそぬ西行

草をいふまゝにさへいふあつちのやうにさへいふあつち  
口のかん様のあつちを舞にりのやうにいふあつちをな  
一首のいふあつちのすゝめを舞にりのやうにいふあつち  
たふさふさのあつちのやうにさへいふあつちをな

花女妙

世をいふ人々もいふあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち  
定家朝臣

神の心をまげのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

花はゆ

たいねむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

一首のあつち  
あつち

はさつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつちのあつちのあつち

おつてはききふゆの夕暮おふゆの夜ををせいでり

てまををうつんん 二箇のまいにしれ山のまのすなをを

おはれがうんん おはれがうんんおはれがうんんおはれがうんん

たつきておひねる おひねるおひねるおひねるおひねる

ろ 化女ふんつらうーオムリんふんふんふんふん

いさきのもたさむ いさきのもたさむいさきのもたさむ

長明

神 もたさむいさきのもたさむいさきのもたさむ

月化がし 月化がし月化がし月化がし月化がし

いさきのもたさむ いさきのもたさむいさきのもたさむ

おはれがうんん おはれがうんんおはれがうんんおはれがうんん

てまををうつんん てまををうつんんてまををうつんん

おはれがうんん おはれがうんんおはれがうんんおはれがうんん

たつきておひねる たつきておひねるとつきておひねる

ろ ろろろろろろろろろろろろろろろ

いさきのもたさむ いさきのもたさむいさきのもたさむ

慈圓大僧正

三田山林りく人の神 三田山林りく人の神三田山林りく人の神

林 林林林林林林林林林林林林林林





尾陽東壁堂藏目錄之内歌書之部

古事記傳 全十八冊

玉勝間 全十五冊

神代正語 全三冊

地名字音轉用例 全一冊

神壽後釋 全二冊

直毘靈 全一冊

玉くくの 全一冊

美濃家修と 全五冊

古今遠鏡 全六冊

同折添 全三冊

天祖都城辨々 全一冊

曆朝紹詞解 全六冊

御僊行長哥 全一冊

三代考 全一冊

源氏物語多枕 全一冊

萬我の以禮 全一冊

萬葉集略解	全三十冊	鶉衣	全十二冊
後選集新抄	全十五冊	枇杷園七部集	全四冊
遷宮物語	全三冊	叢句集	全四冊
熱田縁記	全一冊	雀芝集	全五冊
志のまみり物語	全二冊	狂哥初日集	全二冊
多々隨筆	全五冊	同 才菴集	全二冊
冠位通考	全一冊	同 物心集	全一冊
江戸職人哥合	全二冊	同 不卜集	全二冊
尾張家話と	全九冊	同 年中抄事	全二冊
伊勢物語	全二冊	同 作者初顔	全二冊

文政二年己卯暮秋發行

書

肆

東都 前川六左衛門

浪華 森本太助

京都 風月庄左衛門

尾張 同 孫助

同 片野東四郎



愛 知 県



1105052499

911

1

2-3